

平成24年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.1

主要事業名	学校図書館の整備	作成日	H25.5.20
		担当	鹿嶋っ子育成課
		部名	教育委員会

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の育成
個別施策	③	読書活動の充実

2 事業概要（Plan）

目的	事業を実施する目標を記入してください。
	児童生徒の自主的な学習活動を支援し、積極的な読書活動を充実させることにより、情報収集及び活用する能力が高めるとともに、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	・学校図書館の整備推進と司書配置校の拡充
	・鹿嶋市学校図書館年間利用計画策定
	・学校図書館と中央図書館との連携強化
	・司書教諭・図書研修体系の確立

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市内小中学校児童生徒及び教職員	規模

予算科目コード	会計	01	款	10	項	02	目	02	事業名	学校図書館経費（小学校）				ほか	
全体計画										23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費	報酬・共済費・旅費								18,301	18,643	19,088	19,088	19,088	19,088
		需用費（消耗、印刷・修繕）								2,452	2,772	1,831	1,831	1,831	1,831
		委託料								2,016	4,179	4,752	4,752	4,752	4,752
		使用料及び賃借料・役務費								5,592	7,577	9,565	9,565	9,565	9,565
		工事費								1,499	2,712	1,260	1,260	1,260	1,260
		備品（管理用備品）								5,975	5,396	4,431	4,431	4,431	4,431
		備品（図書）								12,301	12,650	12,774	12,774	12,774	12,774
		合計								48,136	53,929	53,701	53,701	53,701	53,701
財源内訳	財源	国庫支出金													
		地方債													
		その他（参加者負担金）													
		一般財源								48,136	53,929	53,701	53,701	53,701	53,701
従事職員数	職員	正規職員								2	2	2	2	2	2
		その他職員													

根拠法令	子どもの読書活動の推進に関する法律，学校図書館法
------	--------------------------

事業の性質	法定受託事務		自治事務（義務）	○	自治事務（任意）		市民サービス		管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	○	その他
							年度から		年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	<p>学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、また学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければなりません（学校図書館法第1条及び第5条第1項）。</p> <p>平成19年度の「新学校図書館図書整備5か年計画」が平成23年度で終了し、平成24年度から今までの「学校図書館図書整備5か年計画」の内容（毎年200億円の措置）に加え、学校図書館への新聞配置として毎年15億円、学校司書の配置として毎年150億円が地方交付税として措置されることになりました。</p>

3 具体的施策評価 学校図書館の整備

「(アウトプット)評価」, 「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①学校図書館の整備推進 【比率: 25%】	H23年度末の未整備小学校4校(豊郷小, 豊津小, 大同東小)の整備及び鉢形小の施設工事	整備校と未整備校の読書量や読書環境等の教育格差をつけないよう早急に整備する必要がある。	10月に豊郷小, 豊津小, 大同東小の学校図書館開館, また, 補正予算により, 鉢形小の整備も行い, 2月に開館。 【目標達成度】 来年度開館予定校も開館させた。 評価: A	どんな図書がどこにあるか明確になるとともに, 児童が図書館に関心を持ち, 図書館に通う姿が見られた。 施策の有効性評価: A	人材派遣職員を開館まで配置するとともに, 単純作業は委託をした。登録などの専門業務は, 長期休業中など市内学校図書館司書を整備校に派遣し, 技術の提供や指導を行った。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 25 【課題】 図書館サービスを充実させ, 図書への関心を持ちつつけるよう働きかけが重要である。
②司書配置校の拡充 【比率: 20%】	学校規模に合った司書の配置。小規模校で2校1名の配置及び学校図書館の整備は行うものの, 司書の配置なしの運営について検証を行う。	人がいる図書館の必要性とともに児童の自主的な運営も必要である。有資格者である司書の有効活用。(学校図書館司書8名)	大同西小・中野西小で1名兼務配置, 豊津小・豊郷小では, 司書を配置しないで学校図書館の運営かできるか検証した。 【目標達成度】 予定通り検証を行った。 評価: A	兼務校については, 司書がいけない日は貸出不可としたためシステム上の貸出冊数は減ったが, 読書量(みんなにすすめたい一冊の本事業)は変わらなかった。司書がいけない日などは, 児童が自主的に飾り付けを行ったり, 司書を配置していない学校においては, 児童が貸出業務を行うなどの自主性が見られた。兼務校間での相互貸借はし易く, 図書を通しての交流ができた。 施策の有効性評価: B	司書がいけない日は, 簡易業務として図書委員会の仕事として児童が行うこととした。(システムを使わない返却・予約受付, 予約貸出, 取り置きなど) 司書を配置しない学校では, 図書の登録やカード作成等専門業務は, 市内司書を派遣した。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 15.8 【課題】 司書がいけない日の図書館の貸出やイベントについては, 教諭の協力なしではできないため, 学校ごとの対応になってしまいが, 司書がいなくても, 図書館の利用は可能にするよう促す。また, 児童でも簡単に使えるシステムの構築が必要である。
③鹿嶋市学校図書館年間利用計画策定 【比率: 15%】	小中学校分の図書館年間利用計画の策定。	どの図書をいつ使うかを共有することにより, 市内の図書を有効活用するとともに, 児童へ多くの資料を提供することができる。	小学校1学期分の改定, 2・3学期分策定。 中学校1学期分の策定。 【目標達成度】 中学校は学習指導要領の改訂があったため1学期のみとした。 評価: B	学校図書館・公共図書館の司書が, どのような単元を行っており, どのような資料を準備提供すればいいのか把握できた。また, 購入図書の参考として利用できた。 施策の有効性評価: A	必要冊数欄を設けた。 年間利用計画に基づく貸出に学校用の団体カードを作成し, 中央図書館へ備え付けとした。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 13.65 【課題】 学校, 司書, 公共図書館がいつ, 何を, どのくらい使うのか共通認識が必要。また, 資料の貸し借りについては各学校対応であり, 他校や公共図書館の資料を配送する物流システムを整備する必要がある。
④学校図書館と中央図書館との連携強化 【比率: 20%】	公共図書館合同研修会・連絡会の開催2回。資料の共有(団体貸出・相互貸借)。	共通認識を図り, 資料を適切・円滑に提供する。公共図書館からの専門的知識の提供および図書館運営の指導を受け, 学校図書館サービスを充実させる。	図書館年間利用計画を基にした貸出960冊, 相互貸借460冊, その他団体貸出あり。 ものしり探偵団(中央図書館主催事業)への参加研修1回。 【目標達成度】 目標回数の研修会・連絡会の開催ができなかった。 評価: B	相互貸借や団体貸出冊数が増えた。事業へ参加することにより, 司書間の交流や情報共有ができた。 サーバーを共有していることにより, 6月は半月間, 学校図書館のシステムが使えなかった。 施策の有効性評価: B	システムの使い方や図書利用カードの取扱などのマニュアルを作成をした。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 15.8 【課題】 公共図書館では人的・物的なバックアップ体制を整える必要がある。また, 公共図書館, 学校図書館の両方の業務を知ることににより, よりよいサービスが提供できると考える。
⑤司書教諭・図書研修体系の確立 【比率: 20%】	司書教諭・学校図書館司書・公共図書館3者合同研修会の開催3回, 図書館協会主催研修会への参加3回(司書のみ)	役割を明確にし, 各々が担当業務を行うとともに, より専門的知識を習得することにより, サービスの向上を図る。	図書館関係者合同研修(5/8, 2/18)2回 県図書館協会研修会への参加(5/29, 11/20)2回 【目標達成度】 目標回数の研修会の開催, 参加ができなかった。 評価: B	3者で役割を確認し, 共通認識を図ることで児童生徒にとってよりよい図書館のあり方や読書環境について考える機会となった。 施策の有効性評価: A	学校図書館に関する研修でも公共図書館職員を参加してもらい, 学校図書館運営は学校だけでなく, 公共図書館も協力関係機関であることを認識させた。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 16.4 【課題】 専門的な研修会が少ないため, 独自で研修を計画しなくてはならないが, 講師の選定が困難である。

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に, アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ, 個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	87	A:合計点が80点以上 B:合計点が80点未満~65点以上 C:合計点が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 図書・学校図書館司書・新聞に係る地方財政措置額19,023千円に対し29,093千円予算化し, 予算化率153%だった。高松小学校が子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞を受賞し, 県内から取組の発表依頼が多数あった。小学校の一人当たりの貸出冊数は10冊ほど下がり42.6冊だったが, 読書量(みんなにすすめたい一冊の本事業)は増加した。しかしながら, 中学校の読書量については, 5%も下がった。				
	継続・休止の理由	継続	理由	学校教育を充実させるため学校には学校図書館の設置義務がある。読書だけでなく, 学習支援設備として, 充実させる必要があるため。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 読書量(みんなにすすめたい一冊の本事業)は年々増えているが, 中学校に進学すると小学校の頃と比べ, 大幅に減ってしまっている。学校図書館の運営は, 学校の理解・協力が不可欠であるが, 学校図書館司書の勤務時間の関係で, 学校と意思疎通ができなく, サービスが低下してしまう。				
	改善策	課題に対する改善策を, 期限や具体的な数値などを記入してください。 小学校図書館サービスを充実させるとともに, 中学校の学校図書館を整備し, 継続的に読書への関心を持たせる。統一した学校図書館司書の勤務時間を学校に合わせ柔軟に対応する。				